

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290800174		
法人名	ヒューマンライフケア 株式会社		
事業所名	グループホーム市川		
所在地	千葉県市川市須和田1-11-13		
自己評価作成日	平成27年12月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成27年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅外に立つグループホーム市川だが、利用者・職員の笑い声が耐えない明るいホームである。職員一人一人が利用者の状態を把握し、また情報共有・より良いケアに繋げようと月に1回ケアカンファを開催し検討している。地域運営推進会議ではご家族様中心に参加して頂き、地域包括・自治会長にも参加頂き意見交換行っている。また行事や外出支援にも力を入れておりメリハリのある充実した日々を送れるよう努めている。利用者の状態把握をし出来ること・出来ないことを把握し自立支援にも力を入れている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人の「ヒューマンライフケア」にて、倫理・理念等を含めた介護ブックを作成し、職員に配布していると共に、定期的な読み合わせや研修を行っており、職員全員が理念に基づくサービスの実施に向け、取り組んでいる。施設内のヒヤリハット発生個所を記録し、分析・検討を行っており、事故発生防止・予防に向けた取り組みを行っている。また、毎月「事故防止」「マナーアップ」「交通安全」に関する目標を設置しており、課題を持って業務に臨む体制が構築されている。今年度は看取り支援に関する研修の実施・施設内の引き戸の改修等を実施しており、入居者のニーズに合わせたサービスの質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目に付きやすい事務所や玄関前に掲示している。またパンフレット・介護ブックにも記載されている。また全体会議では理念の暗礁をし、どんな取り組みにしていこうか話し合っている	法人理念・運営方針・コンプライアンス等を掲げており、事業所内に掲示していると共に、パンフレットや入職時に配布する介護ブックに記載し、内部・外部への周知を図っている。また、定期的に介護ブックの読み合わせ等を行っており、基本に立ち返る機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の自治会長に協力いただき、地域運営推進会議に参加して頂けることもあり中学生の職場体験やボランティア等受け入れている	地域の自治会長を中心に協力を得ながら地域行事への参加等を行っており、地域との交流を図っている。地域の中学生の職場体験や認知症サポーター養成講座の実施等、地域貢献にも努めている。また、地域に対して介護相談の受付を行う等、施設の知名度向上に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	さらやの手洗い講習や認知症サポーター養成講座を開催し利用者・ご家族を中心に参加していただきその際には地域の方にも参加いただけるようご案内している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回状況報告、ホームでの生活状況を報告し、地域包括支援センターからもご意見を伺っている	運営推進会議は、年2回開催しており、市職員・地域包括支援センター職員・自治会長等が出席している。会議では、施設活動報告や意見・情報交換を行っており、施設理解の促進及びサービスの質の向上に繋げている。また、会議にて、避難訓練や行事を行う事で、さらに深い理解を得られるよう工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域運営推進会議の議事録は毎回行政に提出し、現状を伝え事故等発生した際にも報告に行っている	日頃から市に対して、業務における相談や報告等を行っており、連携を図っている。また、市の認知症対応型施設・小規模多機能施設介護職員会に参加しており、同業者・市職員との意見・情報交換や研修を行う機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の開閉時に音楽が流れるだけで、鍵等は日中は一切かけていない所在確認を常に行い目が行き届いている状況。また身体拘束している利用者は一人もいない。研修は年に1度必ず開催している	身体拘束排除・権利擁護・虐待防止における研修の実施及びマニュアルの整備を行っており、職員へ意義の理解促進を行っている。日中は玄関の施錠せず、自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修を必ず年に1度開催し、『グレーゾーンの虐待』にたいしても起こらないよう事例研究を元に勉強会を実施している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターにて情報収集を行い必要に応じて利用できる体制を心がけている。成年後見人を利用している方もいらっしゃる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には理解が求められるようしっかりと説明を行い質問しやすい環境づくりをしている。また、改定時には覚書を交わしその説明は地域運営推進会議か面会時に行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は常に利用者の話を聞く体制で介助にあたり、ご家族様が面会にいらした際は必ずご要望を伺っている。また苦情・相談窓口も設けている	家族の訪問時・電話連絡時・運営推進会議等を活用して、意見・要望の確認を行っている。各入居者に担当職員を設け、手紙等で報告を行い、信頼関係の構築に努めている。挙げた意見・要望においては、会議・申し送り等を活用して、周知・検討を図っており、適切な改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議では職員が意見を出しやすいよう質問し、意見の聴衆を心がけている。また良いケアに対してはすぐに実践している	定期的に会議を開催しており、職員の意見・提案を確認していると共に、定期的に面談を行っており、職員の意向や思いを把握する仕組みを構築している。また、法人内でマイスター制度・資格取得の奨励・親睦会の実施等が行われており、適切なスキルアップ・チームワーク向上に向けた取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の性格や仕事を常に評価し、やる気のできる声かけを心がけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は積極的に本社研修に参加し、無資格の職員は今年ヘルパー2級の資格習得。また本社のマイスター制度を利用し必要だと思われる職員には受講して頂いている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他拠点に研修やヘルプに行くことで他の事業所との交流を図っている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居を希望される利用者には必ずご自宅に伺い生活状況や生活歴等確認しご要望を伺っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時に家族の立場になってお話し伺い、家族が困っていることご要望等伺聞いた上でホームでできる介護の方法を提案している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症ではない方や要介護度がまだつかない方が相談にいらしたことがあるがその際はその方が安心して生活できる場の提案を率先しておこなっている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の食器は洗って頂くことや、盛り付け・配膳または洗濯物畳み等に参加頂き、利用者の身体機能に合わせた介助が出来るよう随時検討している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事を行う際にはご家族に参加いただけるようご案内している。月に一度利用者の生活状況をお手紙にて報告している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外にも知人・友人の面会が可能。またご家族に連絡させていただいた上での知人・友人との外出が可能である	希望に応じて、友人・知人・家族等の訪問を受け付けていると共に、外出・外泊・手紙や電話のやり取りも可能となっている。また、地域の商店の利用や郵便局員との挨拶・声掛け等を通じて、馴染みの場作りや地域と関わる生活の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりあえるよう合同レクリエーションや体操等行い、利用者同士の橋渡しも職員が積極的に行っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても今後相談や支援の努めることお伝えしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約時にご本人様の生活歴や希望・ご要望等お伺いし身体状況も確認したうえで医療機関や他の事業所からのサービスが受けられるようにしている	契約時に本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認していると共に、他事業所や医療機関からも情報提供を受けており、より詳細な情報の把握に努めている。また、会議や記録等を活用し、職員へ情報を周知すると共に、適切な検討を行い、本人らしい生活の支援を目指している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	常にモニタリングを行い、生活状況を把握するため記録している。また新たに得られた生活歴やご本人様のご要望などケアに反映できるよ職員で話し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に利用者の身体状況の把握に努め必要な介助を検討し能力が引き出せるよう介助に当たっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成前にご家族様よりご要望伺い、可能ならご本人様にもホームでの生活での希望を伺ってからサービス担当者会議等開催し計画を作成している	本人及び家族の意向・会議での検討内容・医師や看護師の意見を基に介護計画の作成を行っている。定期的に目標の達成状況の確認及び評価を行っており、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に残すだけでなく必ず朝・夕方の申し送りにて情報共有し、変化があった際には口頭で必ず伝えている。工夫したこと等については連絡ノートにて情報共有することがある		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月1回ケアカンファレンスを開催しご家族のご要望を伺い利用者のニーズに応えられるよう検討している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの協力を得て利用者の好きなことを取り入れ豊かな暮らしになるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの往診以外の受診は基本的には家族にお願いしているが、ご家族様が都合のつかない際には看護師か介護職員にて対応可能としている。現在内科往診以外にも希望者には精神科・皮膚科・耳鼻科の往診が可能である	希望の掛かりつけ医への受診が可能となっていると共に、定期的に内科往診・必要時の歯科医往診を実施しており、適切な医療受診を支援している。また、管理者・看護師へ24時間連絡が可能な体制を整備しており、緊急時の対策を講じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専従の看護師または管理者に利用者に関わればすぐに対応できる体制が整えられている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護支援専門員または看護師介護職員が病院に伺い担当医と情報交換し退院の見通しや退院後のケアについて話合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師が回復の見込みがないと判断した際にはかかりつけ医看護師 管理者ご家族と話しあいご本人様家族の要望を取り入れ終末ケアに職員一同で対応している。	契約時に延命希望等を含めた意向の確認書類を交わしていると共に、終末期に関する方針を明文化し、説明をしている。必要に応じて、家族・医師・看護師と相談しながら適切な支援に向けた体制を構築している。また、今年度は看取りに関する研修を実施しており、更なるサービスの向上に向けた取り組みを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議での研修で緊急時の対応は職員全員周知している。夜間何かあればすぐに連絡できるようホーム用携帯所持してケアに当たっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練により職員全員周知している。また避難訓練の際には近隣の方やご家族に参加していただけるよう地域運営推進会議時に実施している	スプリンクラー・自動通報器・火災報知器等の消防設備を設置していると共に、定期的に消防避難訓練を実施している。訓練では、通報訓練・夜間想定訓練等を実施しており、状況に応じた避難方法の確認を行っている。避難訓練を運営推進会議の際に実施する等の工夫をし、理解促進に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は一人一人に合った声かけをしており言葉使いや態度には充分注意している。また個人情報やケア記録は利用者の目に触れないよう保管している	プライバシー保護・個人情報保護等を含む方針・マニュアルを介護ブックに記載しており、定期的に読み合わせを行い、職員へ意義を周知している。また、希望に応じて同姓介助を実施しており、プライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや感情を引き出せる努力や声かけは職員が常に行っている生活場面では選択・自己決定が出来るよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、利用者中心の介助を実践している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容師に訪問して頂き好きな髪形やおしゃれが出来るようにしている。またご本人様らしい服装や、洋服の選択等行っていたい		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常にご本人様の嗜好を伺い提供できるよう情報収集し共有している	献立の作成及び食材の配送を業者に委託しており、栄養バランスに配慮した食事提供を行っている。また、定期的に特別職の提供・外食行事の実施等を通じて、食の楽しみを支援している。	入居者の心身の状況に応じて、柔軟な対応を求められるケースが多い為、今後は人員配置やケアの手順等の見直し・再検討を行い、食事時の安全確保及び希望に沿った支援の提供に取り組んで頂く事を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事 水分量の把握のため一覧表にて記録している。水分を一度にたくさん摂取できない方にはお好きな飲み物、小まめな水分補給にて対応。食事はその方の嚥下機能に合わせて食事形態を変えて提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	かかりつけの歯科の歯科衛生士による口腔ケア研修を実施しその方の状態に合わせた口腔ケアが出来るよう技術を磨いている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握することによりその人に合った時間にトイレ誘導を行い、オムツの使用が減るよう常に検討している	入居者一人ひとりの排泄状況を記録しており、個々の排泄パターンを把握すると共に、声掛けやトイレ誘導にて対応し、排泄の自立に向けた支援を行っている。必要に応じて医師・看護師に相談する他、オリゴ糖や乳酸飲料の提供を行い、適切な排便コントロールを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には下剤に頼るだけでなく、オリゴ糖や乳製品等食べて頂くことで便秘解消に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は個別にて対応。出来る限りご本人様のご希望である同性介助や時間帯に配慮している。入浴拒否の強い利用者には体調やご気分に応じてお声かけしている	入居者の希望や体調等に応じて、柔軟に対応し、適切な入浴機会を確保すると共に、必要に応じて、清拭・シャワー浴・部分浴を実施し、入居者の清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠パターンを把握し夜間眠れなかった利用者に対しては様子観察を行い傾眠等見られた際は居室でやんで頂ける体制が整えられている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての研修を行い職員周知している。また服薬時は誤薬防止のため2人で確認してから服薬することとしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事や嗜好品等利用者一人一人把握し提供している。また利用者の得意分野も職員全員で把握しており適切な役割や外出での気分転換等図れている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様希望の遠出はご家族様にお願いしているが、近所への外出希望があった際には職員が出来る限りで対応している	日頃から散歩・買物・敷地内を活用したお茶飲み等を実施しており、戸外に出る機会を設けている。また、定期的に外出行事を企画・実施しており、戸外での楽しみを支援している。年間の行事計画を立て、感染症流行時等には室内での楽しみを充実させるよう工夫しており、入居者の生活の活性化に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブル防止のため金庫にて保管しているがご本人希望時にはお渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様希望時には電話を使用して頂き、必要な際はお手伝いし、手紙等はご本人様にお渡ししている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂にはテーブル席の他にソファを配置し寛げる空間となっている。また写真や季節の飾りつけをし季節を感じられるよう工夫している	リビングにはソファ・テーブル・椅子等を設置しており、入居者が自由にくつろげる環境作りがなされている。また、施設内には行事の写真を掲示しており、楽しい施設作りに努めている。施設内のヒヤリハット発生個所を記録し、分析・検討することにより、事故の発生防止・予防に繋げるよう施設全体で取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日常のほとんどを過ごすフロアにはソファを配置し、利用者の状態にあった椅子に座って頂き好きな所で過ごせる空間となっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や思い出の品等飾って頂き、また家具等も持ち込んで頂き馴染んだ物の中で生活できるよう支援している	本人・家族の希望に応じて、馴染みの家具等を自由に持ち込むことが可能となっていると共に、ポータブルトイレ・テレビの設置等も可能となっており、生活歴に合わせた居室作りを行っている。今年度は扉の改修を行っており、使いやすさ・安全性に配慮した設備へと変更している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全てバリアフリーになっておりエレベーターも設置しているが希望者には階段を使用していただくこともある		